

保護林における希少野生動植物種の保護管理について ～食草の増殖等～

近畿中国森林管理局 奈良森林管理事務所

業務グループ係員 山村 実香

昆虫生態写真家 伊藤 ふくお

1 課題を取り上げた背景

ゴイシツバメシジミは、1973 年熊本県で初めて発見されました。台湾や中国やインドに生息していますが、国内では九州の一部と奈良県のみで生息しており、国の天然記念物及び希少野生動植物種に指定されています。今回の調査フィールドである奈良森林管理事務所管内の国有林は、ゴイシツバメシジミが生息しているとして、1993 年に国有林の一部に保護林を設定、1994 年から環境省（庁）等により調査が進められていますが、1997 年に目撃情報があったものの、その後は確認されていません。また、ゴイシツバメシジミが唯一の食草としているシシンランも、2001 年度に実施した保護林内の生息環境調査では確認できませんでした。

そこで、当該保護林をゴイシツバメシジミの生息適地として再生するには、食草であるシシンランの増殖が必要であるとの結論に至り、シシンランの生育、繁殖状況を調査するとともに増殖技術を確立するため、2003 年から 15 年間試験研究に取り組んできました。

2 取組の経過

奈良森林管理事務所では、2003 年から昆虫生態写真家の伊藤ふくお氏に協力いただき、保護林内の巡視、シシンランの増殖とゴイシツバメシジミの生息調査を行っています。

シシンランの増殖については、当初生育に困難を極めましたが、播種から 10 年目の 2013 年からシシンランの開花が見られるようになり、2014 年から新たに導入した葉芽挿しによる増殖方法で良好に生育させることが可能となりました。

2017 年度には、環境省近畿地方環境事務所と連携し、増殖したシシンラ

ンを使った誘引トラップを国有林と環境省調査箇所の 2 箇所に設置し、ゴイシツバメシジミの生息状況を調査しました。

3 実行結果

シシンランの増殖技術については、長年にわたる取組の結果、播種では 10 年、挿し芽では 3 年で開花することが確認できました。しかし、これまでの生息調査及び 2017 年度の誘引トラップによる調査においても、ゴイシツバメシジミの幼虫や成虫は確認できませんでした。



写真1 播種による開花



写真2 葉芽挿し用の葉をパーミキュライトに差し込んだもの



写真3 葉芽挿しシシンラン開花



写真4 誘引トラップによる調査

4 考察

シシンランの人工的な増殖技術は、ほぼ確立できたと考えられます。

シシンランはゴイシツバメシジミの幼虫が食草とする唯一の種であり、生息環境を左右するものであることから、当該保護林をゴイシツバメシジミの生息適地として再生するため、今後は、増殖したシシンランを生立木に着生させる技術の確立に取り組むことが必要と考えています。